

春期開催報告  
第26回  
**Jリーグ**  
4月22・29日合併号掲載  
第27回  
**セレッソ大阪**  
5月6日号掲載



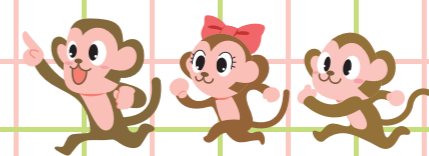
# アイテム 26th しごとと探検隊

アイテムしごと探検隊は「しごとの素晴らしさを伝えたい」という  
私たちの思いから始まりました。  
実際の職場に足を運び、そこで働く人の話を聞くことを通して、  
しごとの大切さ、素晴らしさに出会ったり、  
発見できることを願っています。

今回の探検先 **公益社団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ)**

●隊員紹介(あいうえお順)●

石田さん(5年生) 遠藤くん(6年生) 大藤くん(5年生) 角田くん(5年生) 川村くん(5年生)  
佐藤くん(5年生) 上楽くん(6年生) 菅谷くん(5年生) 高田くん(6年生) 高橋くん(6年生)  
船山さん(5年生) 堀田くん(6年生) 堀川さん(5年生) 堀川さん(6年生) 堀越くん(5年生)  
丸山くん(6年生) 米原さん(5年生) 米山くん(5年生)



**今回の探検先は…**  
**公益社団法人**  
**日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)**

東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ。チェアマン室や約40人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われている。同じビル内には、オフィシャルグッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、映像を管理する「Jリーグメディアプロモーション」など関連会社がある他、「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

●探検実施日：2013年3月25日(月)

## 20周年を迎えるJリーグ

今回の「アイテムしごと探検隊」は、7回目となるJリーグ訪問。日本のサッカーを支える、様々な人たちから話を聞いてきた。

抽選で選ばれた小学5・6年生18名をまず迎えてくれたのは、大東チェアマン。「今年で20周年を迎えるJリーグは、地域に根差したチーム作りを注いできました。今では30都道府県に、J1、J2あわせ40ものクラブチームがあるそう。今回の参加者の中にも地元チームのサポーターが多く、チェアマンも嬉しそう。

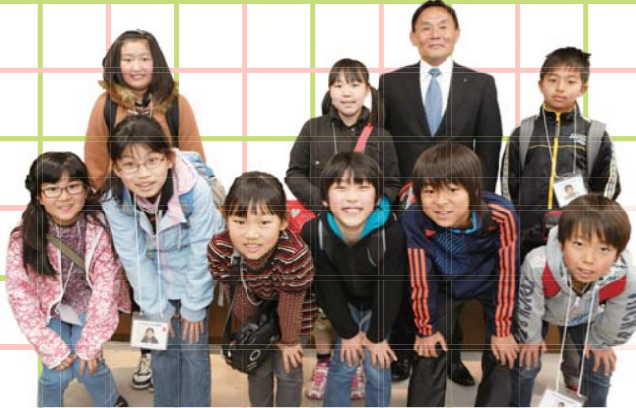


## 毎試合2千もの動きをデータ分析

データスタジアムは、試合のデータをコンピュータに入力し、分析する会社だ。「録画を見ながら、ひとつひとつのパスやゴールを確認し、入力していきます。その数は毎試合およそ2千。入力するのに約13時間かかります」と、同社の中村さん。各選手のゴール成功率やアシストパスが得意な選手など、データの積み重ねからいろいろなことがわかる。これらのデータを、テレビなどのメディアのほか、Jリーグの各チームに提供するが仕事だ。「これから戦う相手チームの分析をしたり、自分のチームの反省をしたり…。ぼくたちのデータが、日本サッカーのレベルアップにつながる嬉しいです」。

## 諦めなければ夢は叶う

そしてお待ちかね、福田さんの登場。「練習や試合をするだけじゃなく、メディアやサポーターにきちんと対応することも、プロの選手としての仕事です」。試合で良いプレーをするためには、良いトレーニングをして、好き嫌いや食生活、しっかり眠る。生活習慣を整えるのも、選手としてとても大切なことと教えてくれた。



# ボール作りや審判、データ分析…。これもサッカーを支える仕事なんだ!

## 世界一目指し、用具でサポート

モルテンの鈴木さんは、今まで使われてきたJリーグのボール14種類を見せてくれた。Jリーグのボールはどれも、熱で接合するサーマルボンディングという製法で作られている。縫い目がないため、どこを蹴っても同じ反発力で、水も吸収しにくく雨の日も使えるそう。同社ではボールだけでなく、プロの審判員が吹くホイッスルやレフリーフラッグ、選手交代用の電光式ボードなども作っている。外で使う用具ばかりなので、耐久性には特に気を遣うとか。「Jリーグが世界一のリーグになるために、用具でサポートするのがぼくたちの仕事です」と教えてくれた。



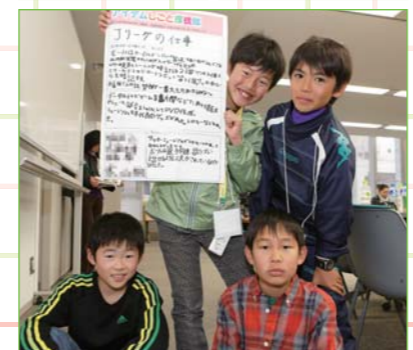
## 聞いて、見て、触れて感じた

その後、Tシャツなどのオフィシャルグッズを扱うJリーグエンタープライズや、Jリーグ全試合のビデオを保存するJリーグメディアプロモーションのオフィス・フロアを見学。続いてチェアマンルームに立ち寄ると、大東チェアマンがじきじきに説明してくれた。



## 準備が一番！審判の仕事

女性審判員の深野さんは、2011年に女子ワールドカップで主審も務めた。「あの時は私も、選手と同じようにドイツに一月間滞在していたんですよ」という言葉に、子どもたちから歓声があがる。ルールブックを丸暗記し、今も毎日のトレーニングは欠かせない。審判をする時には、左右の腕に一つずつ腕時計をする。「試合時間を計る時計が、試合の途中で止まってしまったら困るでしょう?」ホイッスルは3個、イエローカードとレッドカード、メモ用のペンはそれぞれ2組ずつ、試合の時は常に携帯しているそう。審判の仕事で一番大切なのは、試合本番までに、頭も体も道具も、しっかり準備をすることだと思っています。

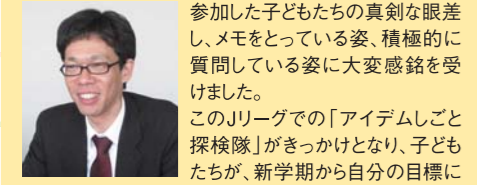


最後はサッカーミュージアムへ。歴代のユニフォームやボールのほか、なでしこジャパンの女子W杯優勝トロフィーなど、さまざまな展示物を見学し、子どもたちは大喜びだった。最後はアイテム本社でのまとめの時間。すっかり打ち解けた子どもたちは、Jリーグでの感想などについて活発に意見を交わす。選手たちの素晴らしいプレーの影に、さまざまな仕事やいろいろな人たちの努力が隠されていたことに、新鮮な驚きを感じていた。福田さんからのメッセージは、あこがれの夢に向かって子どもたちの背中を押ししたようだ。

## 感想コーナー

- Jリーグの仕事は、とても大変だと思ったけど同時にやりがいのある仕事だと思った。
- ぼくは福田さんの話を聞いて、才能だけではなく、毎日の努力の方が大事なことが、改めてよくわかりました。
- 知らない友達と仲良くなったり、元Jリーガーの福田選手に質問したり、とても楽しかったです!

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)  
 早藤 正規さん



参加した子どもたちの真剣な眼差し、メモをとっている姿、積極的に質問している姿に大変感銘を受けました。このJリーグでの「アイテムしごと探検隊」がきっかけとなり、子どもたちが、新学期から自分の目標に向かって、何かをスタートしてくれるといいなあと思っています。もちろん、これをきっかけにJリーグに興味を持ってもらえると大変嬉しいです。どこかのスタジアムで会えるのを楽しみにしています。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力のお願い  
 訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会を一緒に提供していただけますか?  
 お問い合わせはアイテムまで  
 ☎0120-938-989

